

令和3年度決算における健全化判断比率及び資金不足比率について

1 令和3年度決算における健全化判断比率の状況

(単位：%)

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
令和3年度 (A)	—	—	8.6	1.7
令和2年度 (B)	—	—	8.7	—
増減 (A)-(B)	—	—	△ 0.1	1.7
早期健全化基準	15.0	20.0	25.0	350.0
財政再生基準	20.0	30.0	35.0	

2 令和3年度決算における資金不足比率の状況

(単位：%)

	簡易水道事業特別会計	公共下水道事業特別会計
令和3年度 (A)	—	—
令和2年度 (B)	—	—
増減 (A)-(B)	—	—
経営健全化基準	20.0	

3 健全化判断比率の推移

(単位：%)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実質赤字比率	—	—	—	—
連結実質赤字比率	—	—	—	—
実質公債費比率	9.5	9.1	8.7	8.6
将来負担比率	6.6	—	—	1.7

(単位：千円)

標準財政規模	2,023,984	2,046,439	2,133,396	2,324,775
うち臨時財政対策債	73,618	53,222	51,806	66,152

◎ 用語の解説

- ・ 実質赤字比率
一般会計等を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率(実質黒字の場合は指標なし)
- ・ 連結実質赤字比率
全ての会計を対象とした実質赤字及び資金不足額の合計から実質黒字及び資金剰余の合計を控除した額の標準財政規模に対する比率 (実質黒字の場合は指標なし)
- ・ 実質公債費比率
一般会計等が負担する元利償還金及び準元利償還金の標準財政規模に対する比率
- ・ 将来負担比率
一般会計が将来負担する実質的な負債の標準財政規模に対する比率
- ・ 資金不足比率
公営企業ごと資金の不足額の事業の規模に対する比率 (黒字、資金剰余の場合は指標なし)
- ・ 標準財政規模
普通交付税の算定の仕組みを通じて計算される、地方公共団体が標準的な状態で収入できるであろう経常一般財源
(標準税収入) + (地方譲与税等) + (普通交付税) + (臨時財政対策債)

4 実質赤字比率及び連結実質赤字比率の推移

(単位：千円)

区 分	実質収支額／資金不足・剰余額				摘要
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
(1) 一般会計	6,176	52,739	36,284	140,852	
(2) 特別会計	3,610	4,637	3,627	4,730	
① 国民健康保険事業特別会計	3,443	4,441	3,465	4,730	
② 後期高齢者医療特別会計	167	196	162	0	
③ 介護保険サービス事業特別会計	0	0	0	0	
(3) 公営企業会計	0	8,760	0	9,642	
① 簡易水道事業特別会計	0	8,760	0	9,642	
② 下水道事業特別会計	0	0	0	0	

(単位：千円)

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	摘要
(4) 標準財政規模	2,023,984	2,046,439	2,133,396	2,324,775	
うち臨時財政対策債	73,618	53,222	51,806	66,152	

(単位：%)

(5) 実質赤字比率 (1) / (4)	— ▲ 0.30	— ▲ 2.57	— ▲ 1.70	— ▲ 6.05	
(6) 連結実質収支額 (1) + (2) + (3)	9,786	66,136	39,911	155,224	
(7) 連結実質赤字比率 (6) / (4)	— ▲ 0.48	— ▲ 3.23	— ▲ 1.87	— ▲ 6.67	

※ 実質赤字収支又は連結実質赤字が黒字の場合、「実質赤字比率 (%)」又は「連結実質赤字比率 (%)」は指標なし

※ 実質赤字収支又は連結実質赤字が黒字の場合、「実質赤字比率 (%)」又は「連結実質赤字比率 (%)」を負の値で参考表示

実質赤字額比率 $\frac{\text{一般会計等の実質赤字額 (1)}}{\text{標準財政規模 (4)}}$ 【 早期健全化基準 15% / 財政再生基準 20% 】
--

連結実質赤字比率 $\frac{\text{連結実質赤字額 (6)}}{\text{標準財政規模 (4)}}$ 【 早期健全化基準 20% / 財政再生基準 30% 】

5 実質公債費比率の推移

(単位：千円)

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	摘要
(1) 地方債の元利償還金	401,745	412,094	422,497	463,069	
(2) 準元利償還金	176,173	163,950	161,563	155,444	
① 公営企業の地方債償還に充てられる繰入金	150,184	146,420	145,592	139,498	
② 一部事務組合等の地方債償還に充てられる負担金	25,989	17,530	15,971	15,946	
③ 公債費に準ずる債務負担行為	0	0	0		
④ 一時借入金利子	0	0	0		
(3) 元利償還金又は準元利償還金に充てられる特定財源	28,552	37,520	36,346	35,561	
① 公営住宅使用料	16,245	25,001	23,796	23,796	
② 都市計画税	12,307	12,519	12,550	11,765	
③ その他	0	0	0	0	
(4) 基準財政需要額に算入された元利償還金・準元利償還金の額	398,742	403,641	396,193	409,023	
① 元利償還金分	311,678	319,844	320,011	339,570	
② 準元利償還金分	87,064	83,797	76,182	69,453	
(5) 標準財政規模	2,023,984	2,046,439	2,133,396	2,324,775	
うち臨時財政対策債	73,618	53,222	51,806	66,152	

(単位：%)

(6) 実質公債費比率（単年度）	9.3	8.2	8.7	9.1	
(7) 実質公債費比率（3カ年平均）	9.5	9.1	8.7	8.6	

実質公債費比率	=	$\frac{[(1) + (2)] - [(3) + (4)]}{(5) - (4)}$
		【 早期健全化基準 25% / 財政再生基準 35% 】

6 将来負担比率の推移

(単位：千円)

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	摘要
(1) 将来負担額	5,936,540	5,780,643	6,216,044	6,870,881	
① 地方債の現在高	3,839,061	3,823,523	4,337,498	5,223,611	
② 債務負担行為に基づく支出予定額	0	0	0	0	
③ 公営企業債等繰入見込額	1,600,232	1,489,265	1,402,927	1,306,732	
④ 一部事務組合等負担等見込額	68,461	51,460	32,178	21,621	
⑤ 退職手当負担見込額	428,786	416,395	443,441	318,917	
(2) 充当可能財源等	5,827,754	6,005,207	6,320,505	6,836,845	
① 充当可能基金	1,811,629	2,021,802	2,270,602	2,503,560	
② 充当可能特定財源	441,740	484,369	442,543	416,297	
うち都市計画税	161,791	143,893	128,905	116,961	
③ 基準財政需要額算入見込額	3,574,385	3,499,036	3,607,360	3,916,988	
(3) 標準財政規模	2,023,984	2,046,439	2,133,396	2,324,775	
うち臨時財政対策債	73,618	53,222	51,806	66,152	
(4) 基準財政需要額に算入された元利償還金・準元利償還金の額	398,742	403,641	396,193	409,023	
(単位：%)					
(5) 将来負担比率	6.6	— △ 13.6	— △ 6.0	1.7	

将来負担比率	=	$\frac{(1) - (2)}{(3) - (4)}$
【 早期健全化基準 350% / 財政再生基準 なし 】		

7 資金不足比率の推移

□ 簡易水道事業（法非適用企業）

（単位：千円）

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	摘要
(1) 繰上充用金	0	0	0	0	
(2) 支払繰延金・事業繰越額	0	0	0	0	
(3) 建設事業以外の地方債残高	0	0	0	0	
(4) 解消可能資金不足額	0	0	0	0	
(5) 資金の不足額 [(1) + (2) + (3)] - (4)	0	0	0	0	
(6) 営業収益に相当する収入	101,588	101,645	89,677	80,396	
① 水道料金	97,153	96,431	84,308	74,453	
② 受託工事収益に相当する収入	3,740	4,183	4,463	5,251	
③ その他営業収益に相当する収入	695	1,031	906	692	
(7) 受託工事収益に相当する収入	3,740	4,183	4,463	5,251	
(8) 事業の規模 (6) - (7)	97,848	97,462	85,214	75,145	

(9) 資金不足比率 (5) / (8)	— 0.00	— 0.00	— 0.00	— 0.00	
-------------------------	-----------	-----------	-----------	-----------	--

※ 資金不足額が負の値の場合「資金不足なし=資金剰余」で、「資金不足比率 (%)」は指標なし

※ 資金不足なしの場合、「資金不足比率 (%)」を負の値で参考表示

資金不足比率	=	$\frac{\text{資金の不足額 (5)}}{\text{事業の規模 (8)}}$
		【 経営健全化基準 20% 】

□ 公共下水道事業（法非適用企業）

（単位：千円）

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	摘要
(1) 繰上充用金	0	0	0	0	
(2) 支払繰延金・事業繰越額	0	0	0	0	
(3) 建設事業以外の地方債残高	0	0	0	0	
(4) 解消可能資金不足額	0	0	0	0	
(5) 資金の不足額 [(1) + (2) + (3)] - (4)	0	0	0	0	
(6) 営業収益に相当する収入	30,243	30,868	28,474	26,065	
① 下水道使用料	30,201	30,801	28,414	26,009	
② 受託工事収益に相当する収入	0	0	0		
③ その他営業収益に相当する収入	42	67	60	56	
(7) 受託工事収益に相当する収入	0	0	0	0	
(8) 事業の規模 (6) - (7)	30,243	30,868	28,474	26,065	

（単位：%）

(9) 資金不足比率 (5) / (8)	— 0.00	— 0.00	— 0.00	— 0.00	
-------------------------	-----------	-----------	-----------	-----------	--

資金不足比率	=	$\frac{\text{資金の不足額 (5)}}{\text{事業の規模 (8)}}$
		【 経営健全化基準 20% 】